「連合２０２５平和ナガサキ集会」主催者代表挨拶

「連合 2025 平和ナガサキ集会」に、全国各地よりご参集の皆さん、大変お疲れさまです。連合会長の芳野でございます。本集会の開催にあたり、主催者を代表してご挨拶を申し上げます。

1945 年 8 月 9 日、11 時 02 分、この長崎の地に原子爆弾が投下され、熱線と爆風と放射線によって、約 7 万 4 千人もの尊い命が奪われました。また、その 3 日前の 8 月 6 日、広島では、14 万人余りの方々が犠牲になりました。
原爆で亡くなられたすべての方々に、哀悼の誠を捧げるとともに、今なお被爆の後遺症に苦しんでおられる方々に、衷心よりお見舞いを申し上げます。

私たち連合は、結成以来、核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現に向けて、さまざまな取り組みを重ねるとともに、幅広い国民世論の形成をめざして、行政や関係諸団体の皆さまにも協力を呼び掛けてまいりました。
原水禁とＫＡＫＫＩＮの両団体におかれましては、日ごろからの連携に加え、本集会にも共催団体として、ご参加、ご協力をいただいております。また、お手元のパンフレットにもありますように、長崎県をはじめ多くの皆さまにも後援団体としてご参加をいただいております。
連合の呼びかけにご賛同いただきました皆さまに、主催者を代表して心より感謝を申し上げます。

また、本日の集会には、ご多用の中、長崎県の大石賢吾知事、長崎市の阿波村功一長崎市原爆被爆対策部 部長、長与町吉田慎一町長、時津町山上広信町長、長崎平和推進協会　調漸理事長にご臨席を賜っております。
あわせて、国際労働組合総連合（ＩＴＵＣ）リュック・トリアングル書記長をはじめ、ＩＴＵＣ－ＡＰ、イギリスからも、それぞれ代表のみなさまにご臨席をいただいておりますこと、重ねて感謝を申し上げます。

さて、今年で戦後 80 年を迎える中、原爆の悲惨な体験・記憶を人々に伝える「語り部」活動の存続がますます難しくなってきています。
連合はそのことも踏まえて、本集会においても、被爆体験者の羽田麗子様をお招きして、お話しをいただくことにしております。

また、明日実施する「ピース・ウォーク」では、連合長崎の青年委員会と女性委員会の皆さんがピースガイドを務めます。
「ピース・ウォーク」にご参加いただく皆さんには、入念な準備を重ねてきた若者たちの熱意を感じていただくとともに、被爆の実相を学び、それぞれの職場や家庭に持ち帰って伝えていただきたいと思います。

核兵器は、人類史上最も破壊力のある非人道的な兵器であり、三度（みたび）使用されることを、決して許してはなりません。
しかし、いまもなお、世界には 12,000 発以上の核弾頭が存在し、人類はいまだに

「核兵器のある世界」に住み続けています。
　そして、世界には武力紛争があふれ、より一層の「対立と分断」を深めています。
　そのようななか、「日本被団協」の、長年にわたる核兵器の非人道性の訴えと平和への歩みが評価され、昨年末にノーベル平和賞を受賞されました。この受賞は、核兵器の脅威が高まる国際情勢の中で、私たちに希望の光を与え、同時に国際社会に対して、「核兵器禁止条約」への早期署名・批准を求める大きな声となりました。
　日本政府には、唯一の戦争被爆国として、「核兵器のない世界」の実現に向けた不断の外交努力を、強く求めたいと思います。

　本集会は、国内外へライブ配信をしております。
　私たち連合は、核兵器廃絶、世界の恒久平和の実現に向けて、志を同じくする皆さまや、「平和首長会議（へいわしゅちょうかいぎ）」、ＩＴＵＣとも連帯・連携し、国内外を通じた活動を一層強化してまいります。
　また、今年は、戦後・被爆 80 年の取り組みとして、特設サイトを立ち上げ、平和への思いを共有・発信するとともに、2026 年に開催される核兵器不拡散条約（ＮＰＴ）再検討会議に向けて、原水禁、ＫＡＫＫＩＮの両団体とともに「核兵器廃絶 1000 万署名」を展開しております。皆様の特段のご協力をお願いいたします。
　結びに、本集会を通じて、核兵器の廃絶、そして世界の恒久平和への想いを共有し、今後の運動につなげていくことを互いに誓いあい、主催者を代表してのご挨拶とさせていただきます。

　ともに頑張りましょう。

以　上